

## 11 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木は、全般に強い引合いが続いている。スギは柱材、中目材とも、大手工場の変わらぬ手当姿勢により順調な荷動き。ヒノキも柱材、中目材ともに動きは良好。丸太の生産は、山元の出材意欲は依然として低調で、入荷、集荷とも平年を下回っている。価格は例年に比べ入荷量が少ない中で、製品の荷動きが好調なことから、大手工場は慢性的な在庫不足が続いており、高値でも買気は旺盛。スギは柱材、中目材とも積極的な手当が続き強含みで推移。ヒノキは柱材の引合い強く値を上げ、中目材は弱保合。群馬は、丸太の手当てには特別問題なく、工場は引続きほぼフル操業。受注・販売状況は夏場の中だるみから 10 月、11 月と引合い良好。製品価格は原木の上昇に追いつかないが、原木もそろそろ峠かと予測。仕事は量産工場に偏っているが、構造材等は足りない状況。

### 2. 米材

9 月の米国新設住宅着工数は、前月比 0.3%増の年率 61 万戸となった。米国丸太は引続き中国向け出荷が順調で、ローグレードは値上げ、値下りが続いた IS 価格は保合。また、カナダ丸太は 7、8 月のファイアークロージア（入山禁止）の影響で、港頭在庫が極端に少ないところに、中国と日本の合板メーカーの買いが旺盛で、オールド、セカンド共に強含み。10 月の産地港頭在庫は約 5,090 万スクリブナー(約 23 万 m<sup>3</sup>)。また、ウェアハウザー社の 11 月積み米マツ IS ソートは据え置き。米材丸太の入・出荷・在庫ともに横這いで推移。大型港湾製材工場の 10 月の荷動きは、前月並で順調。内陸部製材工場の荷動きは、前月よりさらに落ち込んだ模様。一方、製材品は入荷・在庫が減少し、出荷は増加した。米国挽き米マツは、円高で内地挽きに比べ競争力が高まり、先行き入荷増が予測。カナダ材は米国向けが減少、中国向けの増加が続く。産地価格は、日本の買気がこれまでになく乏しく据え置き。材長はプレカットが 3m、3.65m のため主力の 4m 材が売れない状況。

### 3. 南洋材

サバの天候は相変わらず不順で、伐採規制強化も加わり出材はかなり減少。相場は出材減によるコストアップ、現地通貨高、国内外からの旺盛な引合いにより一段高。製品相場も良材不足で注文に応じきれず引続き高騰。サラワクの天候は、ここにきて多少良くなっている。原木はインド、中国、台湾等からの引合いが強く、堅木のみならずメランティ類も一段と強含み。製品はサバ同様に指値にかかわらず良材不足で供給がままならない状況。PNG・ソロモン材は、中国のバイヤーがサバ、サラワクの原木高騰に嫌気がさし、この地区に仕入

先を変えてきており相場は相変わらず強含み。入荷状況は丸太・製材品ともやや減少。出荷は横這い、在庫はやや減少。原木の販売状況は、合板用・製材用ともに低迷。製材品は全ての品目でFOBが一段と値上げ基調だが、円高では吸収できずコストアップ分を売値に転嫁するのに苦慮。荷動きは供給不足で全般的に良い。

#### 4. 北洋材

シベリア現地は端境期に入っていることと、採算悪化による伐採業者の撤退により、丸太の出材が大幅に減少し、現地製材工場は丸太不足で操業停止しているところもある。例年この時期は燃料運搬のため鉄道貨車不足が顕著で、木材運搬に支障をきたしていたが、最近になり鉄道の民営化に伴い車両不足が一層悪化し、運賃が20\$/m<sup>3</sup>も値上げされた。中国は再び買い始めている模様。富山港・富山新港の10月丸太入荷は、9,802 m<sup>3</sup>(アカマツ4,065 m<sup>3</sup>、エゾマツ4,681 m<sup>3</sup>、カラマツ1056 m<sup>3</sup>)と先月比28%減。製品は4,664 m<sup>3</sup>で先月比32%減。荷動きは製材品が輸入製品、国内挽きとも動き始めた。アカマツは丸太、原板とも入荷少なく動きは良い。在庫は1.5ヶ月。価格は丸太、製材品とも全般的に強含み。国内製材工場は、エゾマツ丸太挽きはトントン、アカマツ丸太、原板は相変わらず不採算。丸太挽き、原板挽きとも在庫少なく、稼働率は80%程度。受注は注文挽き多い。

#### 5. 合板

合板用丸太は、国産材は強保合の状況に変化無し。南洋材は産地では強含みだが、円高の影響で横這い。北洋材は高値張り付きのため、米材の引合い増える。9月の国内の合板生産量は約23万m<sup>3</sup>で、うち針葉樹合板は20万m<sup>3</sup>(対前年同月比113%)で今年2番目に多い水準。出荷量は19.5万m<sup>3</sup>(同111%)と直需関係を中心に好調だったが、4ヶ月連続で生産を下回ったため、在庫は10ヶ月ぶりに20万m<sup>3</sup>台に増加。国内産の合板は、保合が続いており、特に針葉樹合板は市場では下落ムードが漂っていたが、メーカー側の努力で安値は払拭されている。国産針葉樹合板は、引き続き直需関係の荷動きが好調で、メーカー側は丸太の上昇を背景に再度値戻しを唱えており、相場に歯止めをかける方針。市場では様子見が強く当用買いに変化なし。一方、輸入合板は、円高により値頃感のある品目も出始めているが、現物は高コストの玉が大半のため、川上では底上げを進めている。輸入合板は全般的に産地との契約残が乏しいため、12月にかけて入荷量は減少との見方が強い。市場ではここ数年秋口以降の価格下落が顕著だったことから、慎重な手当てが続く見通し。

#### 6. 構造用集成材

ラミナの入荷状況は、先月中頃までは夏休みのため極端に少なかったが、11月に入り順調に回復している。その分国内メーカーの在庫は増え、第4四半期の契約はサプライヤーの思惑に反し、売れていない状況。踊場であったWW集成柱は下げに転じた。桁はプレカット工場のフル稼働の状況から、大きな下げはないが、引合いは弱い。一方、国産材集成材は引合い強いものの、原料不安定のため供給量は増えていない。国産集成材のうち柱、梁共に落ち着きつつあり、12月以降は動きは悪くなると予測。価格動向は、12月以降は280ユーロ/

m<sup>3</sup>クラスが入り、原料高・製品安の傾向。輸入集成材は、現地の生産量が増加し、今後、輸入集成材は順調に入荷すると思われる。ビルダーの駆け込み上棟は一服感が出てきた。また、エコポイントの影響で断熱材の欠品が発生し、納期が1ヶ月以上かり、住宅引渡しに相当遅れた事例もあった。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、スギ、ヒノキとも入荷量が細く、柱、土台角に小動き。外材は米ヒバ土台角、米ツガKD垂木、入荷薄のアカマツ垂木・小割に引合い多い。造作材は、国産材はスギの羽目板以外は低調、外材では、スプルー、ヒバ、ピーラーの良材は堅調な動き。このところ国産材への引合いが従来に比べ目だって多くなっている。国産材は需要のパイが小さいため大きな動きはまだ無いが、今後の動きに注目し期待したい。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギ、ヒノキともKD柱・土台は変わらず。外材は、米ツガKD平割、正角KDが弱保合。欧州材間柱等は弱く、ロシアアカマツ垂木は横這い。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合。合板は針葉樹、ラワンとも横這い。床板は変わらず。プレカット工場の動向は、見積、加工ともに順調に推移しており、一部メーカーでは3週間待たされる状況。一部であるが新規受注が受けられない工務店が見られる中で、多くの工務店では仕事が甘くなっている。

### [【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)

事業名：林野庁補助事業「木材利用促進のための市場情報集積提供事業」

事業実施主体：特定非営利活動法人 活木活木（いきいき）森ネットワーク